

国際アーサー王学会日本支部会報

Société Internationale Arthurienne Section Japonaise

目次

I. 2009 年度年次大会報告	1
年次大会プログラム	1
総会議事録	1
大会発表要旨	3
II. 文献情報	5
独文学	5
仏文学	6
英文学	8
イタリア、スペイン、カタルーニャ	8
中世ラテンとその周辺	9
その他	9
III. 2010 年度年次大会のお知らせ	10
IV. 会計からのお願い	10
V. 会員名簿に関するお願い	10
VI. 研究発表・シンポジウム企画募集	10

I. 2009 年度年次大会報告

日本支部の 2009 年度年次大会は、下記の通り滞りなく開催されました。ご参加いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

[日時] 2009 年 12 月 19 日 (土) 午後 1 時より

[場所] 慶應義塾大学日吉キャンパス  
来往舎 2 階大会議室

[大会費] 1,000 円 (学生無料)

[懇親会費] 5,000 円 (学生 4,000 円)

年次大会プログラム

開会(13:00)

開会の辞 会長 高宮 利行 (慶應義塾大学)

第一部 研究発表(13:05~14:15)

(司会) 高宮 利行

①「明治・大正期におけるアーサー王物語翻訳文献」

(発表者) 山田 攻 (比較・埼玉医科大病院)

②「吟遊詩人マーリン——ウォルター・スコットと J・F・M・ドヴァストン」

(発表者) 高橋 勇 (英文・慶應義塾大学)

第二部 情報交換フォーラム(14:15~14:45)

第三部 講演(15:00~16:00)

「中世をつなぐものとしてのラテン語」

(講師) 沓掛 良彦

(東京外国語大学名誉教授)

(司会) 篠田 勝英 (白百合女子大学)

支部総会(16:30~)

(議長) 会長 高宮 利行

懇親会(18:00~)

(場所) ド・マーレ湘南 日吉店

2009 年度大会では、会員・非会員の皆さまに多数ご参加いただくことができました。行き届かぬ大会運営を見るに見かねたのか、多くの方々よりあたたかいサポートをいただきましたこと、心より御礼申し上げます。お茶や菓子などの差し入れを下された皆さまにも感謝致しく存じます。また受付業務は慶應義塾大学の学生さんにご協力いただきましたことをここに記し、感謝の意を表します。懇親会も、会場いっぱい参加者による熱気で大いに盛り上がりました。ご参加・ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。(事務局)

総会議事録

報告事項

①新役員について

2008 年の総会において高宮利行新会長が選出されたのを受け、2009 年度より新たな役員が就任した旨が報告された。顔ぶれはニューズレター 22 号に掲載済みのため割愛。

②2009 年度の活動について

会報・名簿の発行ならびに *Bibliographical*

**Bulletin** の発送等について報告があった。また英国ブリストルにて 2011 年 7 月 25～30 日に開催される第 23 回国際大会について改めて告知された。

③幹事（書誌）からのお願い／報告

**Bulletin** とニューズレターに掲載される書誌の編集方針について説明があった。前者はアーサー王伝説もしくは中世文学に関連する会員業績に限り、後者は会員のその他業績および広くアーサー王伝説関連の出版物を掲載する。

また **Bulletin** に掲載される梗概の長さの上限が 100 語と大幅に縮減されたので、寄稿者に注意を呼びかけた。

特に **Bulletin** への掲載に当たっては書籍・論文を実際に手にして検討しなくてはならないため、経済的負担や時間的制約を考慮し、できるかぎり執筆者本人から書誌担当者に献本や抜き刷り送付をお願いしたい旨が強調された。

④退会希望者報告

- 春田 節子
- 田口 綾子
- 浦 一章

協議事項

①2009 年度会計報告

幹事（会計）より 2009 年度の会計収支決算報告が報告され会員の承認を受けた。

（付記）2010 年 12 月 18 日に開催された 2010 年度支部総会において、上記収支決算の訂正が提示され承認を受けた。以下はその 2010 年 12 月版の報告を記載する。

〈収入〉

項目	金額
大会費	35,000
展示料	20,000
懇親会会費	185,000
会費（他年度含む）	163,500
入会金	6,000
寄付金	5,000
利子	147
小計	414,647
前年度繰越金	156,073
計	570,720

〈支出〉

項目	金額
懇親会費用	185,000
大会アルバイト料	15,000
本部への学会誌支払	*162,417
郵便局振込手数料	2,500
事務・雑費・郵便費	16,170
学会誌配布費	35,820
小計	416,907
翌年度繰越金	153,813
計	570,720

\*\$21×85(人分)=\$1,785.00

\$1,785.00=¥164,917 (\$1=¥90.99) (手数料¥2,500 含)

続いて 2010 年度予算が報告され会員の承認を受けた。

（付記）上記収支決算の訂正に基づき、予算案も訂正が提示され承認を受けた。以下はその 2010 年 12 月版の予算を記載する。

〈収入〉

項目	金額
懇親会会費	200,000
大会費	35,000
会費	230,000
入会金	9,000
展示料	20,000
小計	494,000
前年度繰越金	153,813
計	647,813

〈支出〉

項目	金額
懇親会費用	200,000
大会経費・アルバイト料	20,000
本部への学会誌支払	170,000
銀行手数料	2,500
事務・雑費・郵便費	30,000
学会誌配布費	40,000
小計	462,500
翌年度繰越金	185,313
計	647,813

## ②入会希望者の報告・承認

近藤 未奈 (大阪学院大学 P)

(推薦・不破有理／徳永聡子)

山田 攻 (埼玉医科大学病院)

(推薦・高宮利行／高橋 勇)

上杉 恭子 (東京大学 (院))

(推薦・月村辰雄／横山安由美)

## ③会計年度の変更について

幹事 (会計) より、実務上の不都合を解消するため、現在日本支部大会前日となっている会計年度の終わりを、大会一週間前へ変更したい旨の動議がなされ、承認された。

## ④会費滞納者の扱いについて

学会費を 3 年以上滞納している会員について、以下のように対処することが幹事 (庶務) より提案され承認された。

a) *Bulletin* の送付を停止

b) 大会案内は送付

c) ニュースレターへ「退会者」としての記載はしない

## ⑤外部への情報発信について

アーサー王伝説に関する解説書がまだまだ少ない現状に鑑みて、国際アーサー王学会日本支部から書籍・ウェブサイトなどの媒体を通じてそうした情報を発信してはどうかという提案が理事会よりなされ、この趣旨のプロジェクトの立ち上げ自体についての承認がなされた。つづいて、必要のある場合には編集委員会などの組織を編成する権限を会長に与える旨が承認された。

### 大会発表要旨

#### ①「明治・大正期におけるアーサー王物語翻訳文献」

山田 攻

本研究は明治・大正期 (1868~1926 年) におけるアーサー王物語受容・展開・背景を翻訳作品の解析から考察するものである。

初めに、明治・大正期発行で現在確認できた翻訳は 21 点であり、坪内雄藏 (1896)、夏目漱石 (1897)、高橋五郎 (1897)、高田梨雨 (1904)、片上天弦 (1905)、中島孤島 (1906)、箕作元八 (1907)、菅野徳助・奈倉次郎 (1907)、

「英語研究」記者 (1913)、内山舜 (1914)、福永渙 (1917)、矢口達 (1919)、馬場直美 (1925)、課外讀物刊行會 (1925) 等が主なテキストである。その内訳は **Thomas Malory (1415/18-71) の *Le Morte Darthur* (1485)** あるいはそれを種本にした児童書からの訳出が **8 点**、**Alfred Tennyson (1809-92) の “The Lady of Shalott” (1842)** が **4 点**、***Idylls of the King* (1859)** 関連の詩が **3 点**、その他 **6 点** となっている。

**Tennyson** の和訳は明治期に多く行われた。大半は英語教育の教材として知識人向けに発行されており、幻想的あるいは愛憎劇を話の中心に据えた印象が強い。対して **Malory** 関連の日本語訳は大半が大正期の発行であった。内容は一般大衆や児童を対象として騎士の勇壮さや王への忠義を強調する。文献によっては序文に騎士道を通じて子供達に愛国教育を施す狙いを意図したと書かれていた。その為に不道德な部分、例えば不義の子モードレッド、ランスロットの不倫等の描写は多くの作品で改変された。大半のテキストは、翻訳の元になった洋書から更に多数の不貞場面が訳出の際に削除されており、日本人翻訳者によって意識的に改変されたことが伺える。

**Tennyson** と **Malory** の翻訳で特に好まれた挿話は「アーサー王の即位」「ガレス卿」「ランスロットとエレイン」「荷車のランスロット」等であった。その理由は江戸文学の「読本」と共通の立身出世、勧善懲悪、色恋沙等の要素が多く、当時の日本人に身近な内容だったためと推定される。

また、初期の翻訳文献の“knight”の挿絵からは、視覚イメージが現在とはかけ離れている印象が強い。挿絵の“knight”は、ギリシャ・ローマ風の服装を着たり、長髪に髭をたくわえた東洋人風であったり、***Les Trois Mousquetaires* (1844)** を連想させる姿をしたり等、現代の感覚からは違和感を覚える姿で描かれた。更に当初“knight”に対しては「武士」が訳語として与えられ、「騎士」は使用されなかった。しかし大正期の半ばより“knight”に対して「騎士」が

訳語に定着するのと同時期に、挿絵の“knight”も現在のイメージに近い姿で描かれるように変化する点も興味深い。

## ②「吟遊詩人マーリン——ウォルター・スコットとJ・F・M・ドヴァストン」 高橋 勇

19世紀初頭のイングランド／ウェールズ国境地帯に生きた知識人ジョン・F・M・ドヴァストンは、近年では鳥類学の先駆者として再評価されつつあるが、青年期には中世趣味の色濃い詩を出版して、小さな名声を博していた。そのドヴァストンが1818年に執筆、1825年に出版した短篇詩“The Elfin Bride, a Fairy Ballad”は、アーサー王伝説の魔術師マーリンを扱っているにも拘らず、OUPより出版されている浩瀚な*The Arthurian Annals*にも記載のない作品である。本発表ではこうした事情から、この掌編の内容と考えられるソース、地理的状况を考察することにした。

この作品ではマーリンが、恋人である妖精の魔力によって妖精の地へ連れ去られ、そこで21年の歳月を過ごす。だがふと望郷の念が湧いたとき、気づくともとの場所に戻っており、自身が妖精に連れ去られたときからほとんど時間が経過していないことに気づくのである。

前書きによれば、この筋立ては18世紀の文人ジョウゼフ・アディソンが、リチャード・ステイールとともに出版していた定期刊行紙『スペクテイター』に掲載した「エジプトのスルタンと偉大なイスラム法学者」の逸話から取ったという。しかしドヴァストンはこの話の主人公をスルタンからマーリンに変えたのみならず、彼を「吟遊詩人 (Bard, Minstrel)」とし、力ある妖精の貴婦人による「誘拐」の構図、すなわち中世英国の伝説にある「吟遊詩人トマス」と同一の構図へと改変した。

「吟遊詩人トマス」は、ドヴァストンと同時

代の人気詩人ウォルター・スコットによって、スコットランド中世の重要な詩人として大いに宣伝されていた。自身のマーリンを特に「ウェールズ人」としたドヴァストンが、スコットによって提示された「スコットランドの吟遊詩人トマス」像を意識して物語を構成したのは明らかだ。

地縁・知己の関係をたどると他にもさまざまな繋がりが見えてくる。ドヴァストンという泡沫詩人の一小品が示すのは、スコットという当代きっての人気詩人に刺激をうけながら、ウェールズ国境地帯の知識人サークルが、まだ文学的素材として「発見」されていなかったアーサー王伝説を早々と受容していた姿なのである。

## 講演「中世をつなぐものとしてのラテン語」

沓掛 良彦

このたびの支部大会では、多年にわたり分野を横断してご活躍の沓掛先生に、中世ラテンの世界についてお話をうかがう機会を得た。中世のヨーロッパ文化・文学理解は、現代的な「各国(語)」の枠組みからではなく、汎ヨーロッパ的ラテン文化の視座が不可欠であることを、ご自身の経験も交えユーモアたっぷりにお示しいただいた。この「各国文学」が芽生えるまさにその時期こそ、中世ラテン文学が最盛期を迎えていたことを考えれば、アーサー王伝説や広く中世文学を学ぶものすべてにとって必須の視点であり、これを碩学の文学者によってあらためて教えていただく有益なご講演であった。

(事務局)

## Ⅱ. 文献情報

### 独文学

(書誌担当：渡邊徳明)

#### 〈研究(雑誌・論文集等)〉

- 平尾浩三 (翻訳) ウルリヒ・フォン・ツァツィクホーフェン『湖の騎士ランツェルト』 2010年 同学社
- 岩井方男 『ニーベルンゲンの歌』と祝宴(1) 早稲田大学政治経済学部教養諸学研究会 『教養諸学研究』128号(2010年) 1-34頁
- 會田素子 「家族の肖像」としての中世騎士物語 — ヴォルフラム・フォン・エッシェンバッハ『パルチヴァール』における年代記的描写について 慶應義塾大学藝文学会 第97号(2009年) 164-181頁
- 加藤耕義・内堀淳志・草本品・高瀬誠・平井敏雄 ルッツ・レーリッヒ著『中世後期の物語と、現代に至る文学および民間伝承へのその影響』研究 学習院大学外国語教育研究センター『言語文化社会』第7号(2009年3月) 59-80頁
- 加藤耕義・内堀淳志・草本品・高瀬誠・平井敏雄 ルッツ・レーリッヒ著『中世後期の物語と、現代に至る文学および民間伝承へのその影響』研究2 学習院大学外国語教育研究センター『言語文化社会』第8号(2010年3月) 91-123頁
- 児島由枝 一二世紀末のマギ図像とカール大帝図像 — シュタウフェン朝神聖ローマ皇帝権とロマネスク聖堂彫刻 — 上智大学史学会 『上智史学』第54号(2009年) 59-76頁
- 寺田龍男 軍記物語と英雄叙事詩(5) — 概念規定に関する諸問題 — 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 『メディア・コミュニケーション研究』第57号(2009年) 35-52頁
- 寺田龍男 Der Wortschatz bei > Virginal < — Versionen (V<sub>10</sub>), (V<sub>11</sub>) und (V<sub>12</sub>) — Teil 2 : Heiden und außer - sowie übernatürliche Wesen 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 『メディア・コミュニケーション研究』第58号(2010年) 137-152頁
- Jörg Mauz: Auslegung des Leidens Christi (Fortsetzung 5) Christ's Passion Displayed (Continued 5) In: *Sophia Linguistica* 57 (2009) p.1 - 31. [Sophia Linguistic Institute for International Communication The Graduate School of Language and Linguistics Sophia University]
- 石塚茂清 ニーベルンゲンリート的主要写本における女性名 麗澤大学大学院 言語教育研究科 『言語と文明』第8号(2010年) 17-41頁
- 石川栄作 R. ヴァーグナーにおけるトリスタンとジークフリート 徳島大学総合科学部 『言語文化研究』第17巻(2009年12月) 1-24頁
- 渡邊徳明 ドイツ中世英雄叙事詩『ヴォルムスの薔薇園』の修道士イルザン 中央大学人文科学研究科 『人文研紀要』第67号(2010年) 29-45頁
- 渡邊徳明 ドイツ中世の英雄叙事詩『ヴォルムスの薔薇園』ヴァージョンCの描写について 日本大学口腔学会 『日大口腔科学』第35巻第2号(2009年8月)
- 林邦彦・渡邊徳明(部分訳・解説) ハイน์リヒ・フォン・テム・テュールリーン作『王冠』 早稲田大学大学院文学研究科ドイツ語ドイツ文学コース Angelus Novus 会 『アンゲルス・ノヴス』第37号(2010年) 50-71頁
- 林邦彦 Stockholm 46 の „Ívens saga” 早稲田ドイツ語学・文学会編集委員会 *Waseda Blätter* 16号(2009年) 41-57頁
- 林邦彦 Ulrich Füetrer の *Iban* における騎士像 早稲田ドイツ語学・文学会編集委員会 *Waseda Blätter* 17号(2010年) 31-44頁

## 仏文学

(書誌担当：小沼義雄)

### I〈中世フランス文学作品、及びその周辺〉

#### (1) 翻訳

クレチアン・ド・トロワ作 (オウィディウスの原作による) 『フィロメーナ (II)』 (天沢退二郎訳)、  
『言語文化』 (明治学院大学言語文化研究所)、27号、2010年、pp.179-202.

ミシュレ (ジュール) 『フランス史 I・II (中世、上下)』 (大野一道、立川孝一、真野倫平訳)、藤  
原書店、2010年.

ラ・ヴァレンヌ 『フランスの料理人—17世紀の料理書—』 (森本英夫訳)、駿河台出版社、2009年.

ラブレール (フランソワ) 『第四の書：ガルガンチュアとパンタグリユエル 4』 (宮下志朗訳)、筑摩書  
房、2009年 (ちくま文庫).

#### (2) 創作

加藤周一 「トリスタンとイゾーとマルク王的一幕」 in 『加藤周一自選集 1：1937-1954』 (鷲巢力編)、  
岩波書店、2009年、pp.39-53.

※ 加藤周一が戦時中 (1944年) に発表した初期作品の一つ。トリスタン物語のパロディー・後日譚であり、ジャーナリズム  
を揶揄する内容となっている。従来の著作集には含まれていなかった貴重な作品。

Deforge (Régine) 『サントクロワ修道院異変—狼を率いる王女—』 (秋山知子訳)、溪水社、2010年.

### II〈研究(単行本)〉

今井光規、原野昇、隈元貞広、山口恵里子、田尻雅士、モールドウィン (ミルズ) 『イギリス・フラ  
ンスの中世ロマンス—語学的研究と文学的研究の壁を越えて—』、音羽書房鶴見書店、2009年.

大宅明美 『中世盛期西フランスにおける都市と王権』、九州大学出版会、2010年.

徳井淑子 『図説ヨーロッパ服飾史』、河出書房新社、2010年 (ふくろうの本).

森本英夫、舟杉真一 『フランス文化を理解するための語彙集』、駿河台出版社、2009年.

### III〈研究(雑誌・紀要論文等)〉

伊藤了子 「tant (...) que P と tant (...) com P—『散文トリスタン』の場合—」、『人文論究』 (関西学院  
大学人文学会)、59巻3号、2009年、pp.23-44.

小澤祥子 「中世ファルスと狂言の比較—人間関係の対立における第三者の役割—」、『仏語仏文学』  
(関西大学フランス語フランス文学会)、36号、2010年、pp.57-74.

川口陽子 「アドネ・ル・ロワ『大足のベルト』における母親観：(2) アドネにとっての理想の母親  
像」、『年報・フランス研究』 (関西学院大学)、40号、2006年、pp.67-80.

小林典子 「ジャン・ルベール集成『色の書』にみるジャック・クーヌの技法書 (レシピ) —14・15  
世紀フランス古文獻とパリ・ミニアテュール彩色法の刷新 (2)—」、『大阪大谷大学文化財研究』、  
9号、2009年、pp.116-158.

佐佐木茂美 「(境界を劃す) 研究者、リタ・ルジュヌヌ逝く」、『流域』、65号、été 2009年、pp.2-5.  
—「アベラール『書簡』、エロイーズ『書簡』—中世ラテン文学と中世フランス文学—」、『流域』、  
66号、printemps 2010年、pp.45-55.

瀬戸直彦 「マルカブリュ研究の展望—作品 11 をめぐって—」、『早稲田大学大学院文学研究科紀要』、  
第2分冊、55号、2010年、pp.47-61.

SETO Naohiko, « "May deu hom voler lo frug que l'escorsa" ? : Remarques sur un cas d'hiatus (PC  
389, 32, v.27) », in Guy LATRY (éd), *La Voix Occitane : Actes du VIII<sup>e</sup> congrès de l'Association  
Internationale d'Etudes Occitanes (Bordeaux, 12-17 septembre 2005)*, Bordeaux, Presses  
Universitaires de Bordeaux, t.1, 2009, pp.339-353.

高名康文 「『狐物語』における色彩—データと考察—」、『福岡大学人文論叢』、41巻4号、2010年、  
pp.1547-1592.

TAKANA Yasufumi, « La parodie du *planctus* dans le *Roman de Renart* », in Jean René KLEIN et  
Francine THYRION (éds), *Les études françaises au Japon : Tradition et renouveau*, Louvain-la-

Neuve, Presses universitaires de Louvain, 2010, pp.11-23.

TSUJIBE-FUJIKAWA Ryoko, « La réception et l'évolution du grand chant courtois au XIII<sup>e</sup> siècle », *Etudes de Langue et Littérature Françaises*, 97, 2010, pp.1-15.

徳井淑子「ペトラルキスムと涙のドウヴィーズ」、『お茶の水女子大学人文科学研究』、6号、2010年、pp.67-80.

殿原民部「両侯暗殺実記（上）」、『流域』、65号、été 2009年、pp.22-25.

—「両侯暗殺実記（下）」、『流域』、66号、printemps 2010年、pp.24-30.

花田文男「河童駒引から中世フランス古譚へ（読後拾遺）」、『CUC view & vision』（千葉商科大学）、28号、2009年、pp.37-40.

原野昇「フランス中世文学におけるロマン」 in 今井光規、原野昇、隈元貞広、山口恵里子、田尻雅士、モールドウィン（ミルズ）『イギリス・フランスの中世ロマンス—語学的研究と文学的研究の壁を越えて—』、音羽書房鶴見書店、2009年、pp.11-50.

—「一写本の運命」、『広島大学フランス文学研究』、28号、2009年、pp.1-10.

※ 1879年の6月7日、とあるドイツ人利用者に閲覧されて以来、行方不明となっている『シャルルマーニュの巡礼』の唯一写本（大英博物館図書館 Old Royal Collection 16 E. VIII）に関するカルラ・ロッシ女史の英語論文の翻訳・解説。当該写本の消失は金銭目的の盗難ではなく、普仏戦争以来、独仏間に横たわっていた政治的・文化的な敵対意識、すなわち文献学上の敵対者（フランス人）に利することがないようにドイツ人関係者によって実行された「文化的ゲリラ」である可能性を強く示唆している。

—「マリ・ド・フランスは聖トマス・ベケットの妹！」、『流域』、66号、printemps 2010年、pp.38-44.

※ Carla ROSSI, *Marie de France et les érudits de Cantorbéry*, Paris, Classiques Garnier, 2009.によって提起された新学説の紹介。歴史的・文献学的な状況証拠の積み重ねにより、「マリ・ド・フランス」と呼び慣わされている女流詩人の正体は聖トマス・ベケットの妹マリ・ベケットではないかと結論づける刺激的、且つ多くの示唆に富んだ論考。

MATSUMURA Takeshi, « Sur certains régionalismes dans les *Evangelies des quenouilles* », in Jean-Francois COUROUAU, Philippe GARDY et Jelle KOOPMANS (éds), *Autour des quenouilles : la parole des femmes (1450-1600)*, Turnhout, Brepols, 2010, pp.31-38.

横山安由美「普遍のつくり方—中世文学と聖杯—」 in 赤羽研三、大鐘敦子、沖田吉穂、神田浩一、北山研二編『危機のなかの文学—今、なぜ、文学か？—』、水声社、2010年、pp.37-55.

渡邊浩司「「ひげ剥ぎ」の文学的肖像—群島王リヨンをめぐる—」、『仏語仏文学研究』（中央大学仏語仏文学研究会）、42号、2010年、pp.9-33.

WATANABE Kôji, « Trébuchet, Wieland et Reginn : Le mythe du forgeron dans la tradition indo-européenne », in Florence BAYARD et Astrid GUILLAUME (éd), *Formes et difformités médiévales : En hommage à Claude Lecouteux*, préface de Régis BOYER et Jacques LE GOFF, Paris, PUPS, 2010, pp.233-243.

#### IV〈書評〉

VAN DEN ABEELE (Baudouin), « Compte rendu : *Etudes de langue et littérature françaises de l'Université de Hiroshima*, n° 24 (Numéro spécial en hommage au Professeur Noboru HARANO pour son départ à la retraite), Hiroshima, Université de Hiroshima, 2005, 658pages », *Reinardus : Yearbook of the International Reynard Society*, edited by Baudouin VAN DEN ABEELE and Paul WACKERS, Amsterdam, John Benjamins Publishing Company, vol.21, 2009, pp.218-220.

井上富江「〈書評〉中内克昌『アキテーヌ公ギョーム九世—最古のトルヴァードールの人と作品—』、九州大学出版会、2009年」、*cahier*（日本フランス語フランス文学会）、6号、2010年、pp.24-26.

高岡幸一「〈書評〉エルコック（W・D）『ロマン語—新ラテン語の形成と進化—』（大高順雄訳）、学術出版会、2010年」、『ふらんす』、8月号、2010年、p.74.

中山恒夫「〈書評〉エルコック（W・D）『ロマン語—新ラテン語の形成と進化—』（大高順雄訳）、学術出版会、2010年」、『図書新聞』、2977号（2010年8月7日付）、p.5.

宮下志朗「〈書評〉大黒俊二『声と文字』、岩波書店、2010年（ヨーロッパの中世⑥）」、『ふらんす』、8月号、2010年、p.75.

渡邊浩司「〈書評〉*Le Livre du Graal*, édition préparée par Daniel POIRION, publiée sous la

direction de Philippe WALTER, Paris, Gallimard, 3.vol, 2001, 2003 et 2009 ; *Album du Graal, iconographie choisie et commentée par Philippe WALTER, Paris, Gallimard, 2009*、『中央評論』、no.269 (61号3号)、2009年、pp.190-191.

#### V<研究書の日本語訳>

エルコック (W・D) 『ロマン語—新ラテン語の形成と進化—』(大高順雄訳)、学術出版会、2010年.

※ 原書はロマン語、すなわちイタリア語、フランス語、カタロニア語、カスティリア語、ポルトガル語、ルーマニア語などが俗ラテン語からいかに生成され進化したかを豊富な資料に基づいて解明した名著として知られている。これは二十世紀中葉までに到達したロマン言語学・文献学の集大成であり、従来等閑にされて来た歴史的・社会的要因にも、アラビア語の貢献にも言及してあり、この分野の研究の出発点である。[紹介文より]

グネ (ベルナル) 『オルレアン大公暗殺—中世フランスの政治文化—』(佐藤彰一、畑奈保美訳)、岩波書店、2010年.

シュミット (ジャン=クロード) 『中世の幽霊—西欧社会における生者と死者—』(小林宣子訳)、みすず書房、2010年.

— 『中世歴史人類学試論—身体・祭儀・夢幻・時間—』(渡邊昌美訳)、刀水書房、2008年.

ブースマ (ウィリアム・J) 『ギヨーム・ポステル—異貌のルネサンス人の生涯と思想—』(長谷川光明訳)、法政大学出版局、2010年(叢書・ユニベルシタス).

ペルヌー (レジヌ)、ペルヌー (ジョルジュ) 『フランス中世歴史散歩』(福本秀子訳)、白水社、2010年(白水Uブックス).

ムツァレツリ (マリア・ジュゼッピーナ) 『フランス宮廷のイタリア女性—「文化人」クリスティエーナ・ド・ピザン—』(伊藤亜紀訳)、知泉書館、2010年.

ラアリー (ミュリエル) 『中世の狂気—十一～十三世紀—』(濱中淑彦訳)、人文書院、2010年.

ルゴフ (ジャック) 『アッシジの聖フランチェスコ』(池上俊一、梶原洋一訳)、岩波書店、2010年.

#### VI<映像作品>

ブレッソン (ロベール) 『湖のランスロ』、紀伊國屋書店、2010年.

### 英文学

(書誌担当：西川正二)

#### <研究(単行本)>

松田隆美 『ヴィジュアル・リーディング—西洋中世におけるテキストとパラテキスト』ありな書房、2010, 254pp

#### <研究(雑誌・論文集等)>

伊藤盡 「中英語詩 *Havelok* における *ut*-再考: *Separable verbs* の *particle* 分離過程」『人文科学論集. 文化コミュニケーション学科編』(信州大学人文学部) (44), (2010), 55-64

高木 眞佐子 'Research Note-1/4: Study on the Prose Brut MSS in relation to William Caxton's *Chronicles of England* (1480)', 『杏林大学外国語学部紀要』 (22), (2010), 101-114

徳永 聡子 「東京大学附属図書館所蔵のイギリス初期刊本—English Short Title Catalogue 登録に向けて」, 『慶応義塾大学日吉紀要, 英語英米文学』 (56), (2010), 49-58

長谷川 千春 『「アーサー王の死」における騎士道精神—騎士道の美徳と不徳—』『鶴見英語英米文学研究』 (11), (2010), 111-129

山口 恵里子 「ラファエル前派兄弟団におけるプリミティヴィズム: 19世紀英国の「ラファエッロ以前」問題」『論叢現代語・現代文化』(筑波大学人文社会科学研究所現代語・現代文化専攻) (4), (2010), 97-155

### イタリア、スペイン、カタルーニャ

(書誌担当：小沼義雄)

#### <翻訳>

エーコ (ウンベルト) 『バウドリーノ (上下)』(堤康德訳)、岩波書店、2010年.



ジャウメー世『征服王ジャウメー世勲功録—レコンキスタ軍記を読む—』(尾崎明夫、ビセンテ・バイダル訳)、京都大学学術出版会、2010年。

タッソ(トルクァート)『エルサレム解放』(A・ジュリアーニ編、鷺平京子訳)、岩波書店、2010年(岩波文庫)。

ペトラルカ『無知について』(近藤恒一訳)、岩波書店、2010年(岩波文庫)。

『原典イタリア・ルネサンス人文主義』(池上俊一監修)、名古屋大学出版会、2009年。

#### 〈研究〉

大黒俊二『声と文字』、岩波書店、2010年(ヨーロッパの中世⑥)。

橋本寿哉『中世イタリア複式簿記生成史』、白桃書房、2009年。

平川祐弘『ダンテ『神曲』講義』、河出書房新社、2010年。

シモネッタ(マルチェロ)『ロレンツォ・デ・メディチ暗殺—中世イタリア史を覆す「モンテフェルトロの陰謀」—』(熊井ひろ美訳)、早川書房、2009年。

#### 中世ラテンとその周辺

(書誌担当：小沼義雄)

#### 〈翻訳〉

修道士マルクス、修道士ヘンリクス『西洋中世奇譚集成、聖パトリックの煉獄』(千葉敏之訳)、講談社、2010年(講談社学術文庫)。

#### 〈研究〉

木下文夫『和羅辞典(新装版)』、国際語学社、2010年。

野津寛『ラテン語名句小辞典』、研究社、2010年。

船越一幸『守護聖人の世界—ヤコブス・デ・ウォラギネ『黄金伝説』を読む—』、文芸社、2010年。

松原國師『西洋古典学辞典』、京都大学学術出版会、2010年。

水谷知洋編『CD-ROM版 羅和辞典(改訂版)』、研究社、2010年。

#### その他(東西交流、比較文学、書誌学など)

(書誌担当：小沼義雄)

天沢退二郎『「宮沢賢治」のさらなる彼方を求めて』、筑摩書房、2009年。

井筒俊彦『読むと書く—井筒俊彦エッセイ集—』、慶應義塾大学出版会、2009年。

気谷誠『西洋挿絵見聞録—製本・挿絵・蔵書票—』、アーツアンドクラフツ、2009年。

佐藤真一『ヨーロッパ史学史—探究の軌跡—』、知泉書館、2009年。

私市正年『マグリブ中世社会とイスラーム聖者崇拜』、山川出版社、2009年。

平井浩編『マイクロコスモス—初期近代精神史研究(第1集)—』、月曜社、2010年(古典転生・別巻1)。

『西洋中世研究』(第一号)、知泉書館、2010年。

### Ⅲ. 2010 年度年次大会のお知らせ

[日時] 2010 年 12 月 18 日 (土) 午後 1 時より

[場所] 慶應義塾大学三田キャンパス  
西校舎 524 番教室

[プログラム]

第一部 研究発表

- ① 「中高ドイツ語の叙事詩における節食について」 (発表者) 渡邊 徳明 (独文)
- ② 「19—20 世紀初期におけるマロリーの『アーサー王の死』——アーサー誕生にまつわるマーリンの役割の変容」  
(発表者) 田中 ちよ子 (英文)
- ③ 「ペルスヴァルの聖体拝領——クレチアン・ド・トロワにおける死と復活の表象について」  
(発表者) 小沼 義雄 (仏文)

第二部 情報交換フォーラム

第三部 講演

「物語実作者から見たアーサー王物語の構成」  
(講師) ひかわ 玲子 (作家)

支部総会

[大会費] 1,000 円 (学生無料)

[懇親会] 17:30～

ポルコロッソ 田町三田慶応通店  
(田町駅三田口より徒歩 5 分)

TEL. 03-6423-0293

[懇親会費] 5,000 円 (学生 4,000 円)

### Ⅳ. 会計からのお願い

#### 会費納入のお願い

下記のとおり 2011 年度分会費の納入をお願い申し上げます。払込票は先般お送りした支部大会のお知らせに同封いたしました。寄付金についてもこちらの払込票をご利用ください。

〈郵便振替口座番号〉

加入者名：国際アーサー王学会日本支部

口座番号：00250-6-41865

年会費：3,000 円

会計：多ケ谷有子

### 寄付金報告とお願い

2010 年度の会費納入に当たって、以下の会員の方々から寄附をいただきました。心より感謝申し上げます。

不破有里様  
原野昇様  
篠田勝英様  
高木眞佐子様  
高宮利行様  
多ケ谷有子

日本支部では、一口 1,000 円からの寄付金を随時募集いたしております。ご寄付を希望される方は、年会費払込票に「寄付〇口」とお書き添えの上、年会費とともにお支払い下さい。また大会会場でのご寄付も受け付けております。皆さまの温かいご支援をお願い申し上げます。

### Ⅴ. 会員名簿に関するお願い

ご連絡先等の名簿記載事項に変更があった場合は、速やかに事務局までお知らせください。ただし実際に会員に配布される会員名簿に関しては、個人情報保護の観点からそれぞれの事項(所属・住所・電話/ファックス番号・メールアドレス)を掲載中止にすることも可能です。ご希望がございましたら事務局までお申し出ください。

なお、国際学会会誌の *Bibliographical Bulletin* については、名簿記載事項変更の届出が反映されるまでに一年かかります。悪しからずご了承ください。

### Ⅵ. 研究発表・シンポジウム企画募集

日本支部では随時、支部大会での研究発表・シンポジウム企画を募集しております。ご希望・ご提案がございましたら事務局までお寄せください。シンポジウム企画は 7 月末、研究発表は 9 月末を締切のめどとし、時期に従って当該年度または次年度の大会に組み入れて参ります。

**編集・発行**

国際アーサー王学会日本支部事務局

〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

慶應義塾大学文学部 高橋勇研究室内

**Tel: 03-5427-1054**

**Fax: 03-5427-1578**

**Email: isamut@flet.keio.ac.jp**

メーリング・リスト

**king-arthur@freeml.com**

(新規登録・アドレス変更は事務局まで)

学会ウェブサイト

**<http://wwwsoc.nii.ac.jp/iasjp/>**